

平成 28 年度中学校武道授業(空手道)指導法研究事業



青空のもと全校生徒による演武

平成 28 年度中学校武道授業(空手道)指導法研究事業〔主催＝(公財)日本武道館・(公財)全日本空手道連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁〕が、平成 28 年 9 月 2 日～3 日の 2 日間、宮城県石巻市総合体育館及び石巻市立門脇中学校で開催された。

本研究事業は、昨年に引き続き 2 回目の地方開催である。平成 24 年度から完全実施された中学校保健体育科における武道授業の充実に向け、中学校現場での授業実践例報告及び指導の検討を研究者 5 名、研究協力者 3 名により行った。また、石巻市立門脇中学校の協力を得て、体育祭の全校生徒による演武を視察した。

1 日目(9 月 2 日)

◆開講式



有竹隆佐
専務理事

主催者挨拶で、有竹隆佐全日本空手道連盟専務理事が「全空連では教育部門として中学校武道授業での空手道に特に力を入れております。空手道は現在約 220 の中学校において採用されていますが、300 校に増やすことを目標にしています。空手道の楽しさ、素晴らしさを一人

でも多くの人に知っていただき、教育現場で親んでもらいたいと考えております。

また、2020 年東京オリンピックで空手が追加種目として正式に決定し、大きく報道されています。空手道の素晴らしさを更に多くの方に知っていただく為、中学校での採用が非常に重要であると考えています。その為にも二日間の研究事業でしっかりと研究していただきたいと思っております」と述べた。

続いて、三藤芳生日本武道館理事・事務局長が「中学校武道必修化が始まり 5 年目を迎えますが、実施率は柔道が 6 割強、剣道が 3 割強、空手道他武道が 1 割となっております。その中で空手道は現在約 220 校と、初年度と比較して約 2 倍に増加しており先生方のご尽力に敬意を表したいと思います。



三藤芳生
理事・事務局長

空手道の研究事業は、昨年度は福島県で行い、今年度は宮城県で行います。東北の大震災を空手道で克服した中学生達を一つの指標とし、その指導者の先生方が中心となり研究事業を進めております。空手道の持つ不屈の精神、自由さ、誰でも何処でもできるという可能性を本研究事業で再確認し、また 2020 年東京オリンピックでの追加種目決定を追い風として全国に発信していただきたいと思っております。二日間の研究事業が実り多き研究事業となりますことを期待しております」と述べた。

また、研究者を代表し、小山正辰研究者が「1895 年に糸洲安恒先生が沖縄で体育として空手を始めた、という歴史があります。その後、沖縄で広まっていったのは体育祭で演武を行ったことが一つの要因でもあります。本研究事業では体育祭の演武視察が予定されておりますので、研究事業としてより広がりのある展開が見えるのではないかと期待しています。本研究事業が実りあるものとなるよう我々研究者一同努力していきたいと思っております。二日間よろしく願いいたします」と述べた。

◆研究協議 I (実践例発表)

まず、近藤裕紀研究協力者が外部指導者(石巻市立門脇中)として実際に携わった空手道授業の説明と、明日視察予定である門脇中体育祭における全校空手の演武についての説明を行った。また、いかにして空手道を授業で採用してもらうかについての討議が活発になされた。

続いて山田久吉研究協力者が浪江中学校での空手道授業について、プロジェクターで映像を交えながら発表した。震災後の浪江町の状況について、生々しい写真が多数あり、研究者一同、発表に聞き入っていた。

最後に菅原源一郎研究協力者が東北地区における中学校での空手道の現状についての発表をした。東北地区での中学生大会や日体協の資格保持者の資料を基に説明がなされた。



事例発表の様子

2日目（9月3日）

◆研究協議Ⅱ（次年度研究事業の検討・体育祭における空手道演武の検討）

小山研究者を中心に本日午後視察予定の門脇中学校体育祭での空手道演武についての視察内容確認がなされた。まず、門脇中学校の外部指導員である近藤研究協力者より演武の概要について説明があった。その後、体育祭での演武の在り方について協議がなされた。組体操の危険性が指摘されている昨今、組体操に代わるものとして空手道演武の効用について協議された。また、休憩をはさんで次年度の研究事業についての検討協議がなされた。

◆研究協議Ⅲ（体育祭の空手道演武視察）

石巻市立門脇中学校に徒歩で移動し、全校生徒による体育祭での空手道演武を視察した。門脇中からの要請で研究者が審査員に加わり、演武採点を行うこととなり、皆真剣なまなざしで演武を見つめていた。



審査員を務めた研究者

生徒たちはそれぞれ赤組、青組、黄色組に分かれ、平安二段、約束組手、基本形を精一杯演武した。演武後には一斉に拍手が起こる素晴らしい演武であった。



二人一組での約束組手

◆閉講式

閉講式では各研究者が体育祭の演武についての感想及び本研究事業の感想を一言ずつ述べ、最後に日下修次全日本空手道連盟理事・事務局長が主催者を代表して挨拶し、全日程を終了した。

◎小山正辰研究者

昨年は体育館での文化祭演武を、今年は青空の下での体育祭演武を拝見いたしました。大正10年、昭和天皇が皇太子の時に首里の正殿で船越儀珍先生が中心となって行われた集団演武をご覧になったという歴史を思い起こさせていただきました。応援合戦から空手演武まで、生徒達のひたむきな姿に涙が出そうになりました。また、この二日間で今後の研究課題についても見えてきたと思います。ありがとうございました。

◎岩城公二研究者

平成22年に『空手道指導の手引』を作成してから全校生徒による空手道演武が行えるまで広まってきたと思うと感慨深いものがあります。学校現場を離れて久しいので早く現場に戻りたいと思っております。

◎中村武志研究者

今日は百人単位での迫力ある集団演武を見ることができました。応援合戦では陣形を目まぐるしく変えたり、飛んだり跳ねたりと、様々な工夫がみられました。空手道の演武発表についても今後色々な工夫ができるのではないかと改めて感じました。

◎石川周亨研究者

本事業に始めて参加させていただき、とても新鮮でした。私も自分の学校で空手を教えていますが、今回参加し、検討協議を積み重ねていくうちにこれからの課題がたくさん見つかりました。今後も微力ながら協力していきたいと思っております。

◎菅原源一郎研究協力者

普段指導をしていると上手いとか下手とか、また大会での勝敗ばかりに目が行ってしまいがちですが、今回の門脇中での集団演武を見て、自分の視野が狭かったと感じています。今後も勉強しながらご協力していきたいと思っております。

◎近藤裕紀研究協力者

今回の研究事業で様々なことを教えていただき非常に勉強になりました。今回学んだことを直ぐ教育現場で活かせるよう今後益々頑張っていきたいと思っております。充実した時間をありがとうございました。

◎日下修次全日本空手道連盟理事・事務局長

本研究事業は日本武道館と全日本空手道連盟の共催で毎年継続的に行っておりますが、確実に前に進んでいると感じております。昨日の事例発表についても素晴らしい内容で、充実したものでした。また、指導者バンクの作成や保健体育授業の教材への空手道に関するページ増へ向けて出版社へ働きかけを行う等、今後全空連として取り組んでいく課題も発見できたと思っております。中学校武道授業で空手道がより多くの学校に採用してもらえるよう努力し、ぜひとも子供たちに空手道を体験していただきたいと思っております。二日間に渡り充実した検討協議が行えたと思っております。ありがとうございました。